

平成 27 年度

厚生労働省保健指導支援事業人材育成事業

保健指導ミーティングの開催  
実施報告

公益社団法人 日本看護協会

平成 28 年 3 月

## 目次

1. 背景と実施経過	3
2. 平成 27 年度実施の特徴	4
3. 平成 27 年度実施状況	5
4. 平成 27 年度各県(3 県)のミーティング実施結果のまとめ	14
5. 今後の保健指導ミーティングの開催に向けて	16
6. 保健指導ミーティング県別実施報告	17
栃木県	18
広島県	27
鹿児島県	42

## 資料

・平成 27 年度実施 3 県の実施状況等の概要	53
・平成 27 年度保健指導ミーティング参加者アンケート	58

## 1. 背景と実施経過

少子超高齢化の急速な進展に伴い日本人の疾病構造は変化し、生活習慣病の割合が増加してきた。生涯にわたる生活の質の維持・向上のためには、発症、あるいは重症化予防の取組みが重要かつ喫緊の課題であり、保健師にはより高度な保健指導のスキルが求められる。

一方、保健師が効果的な保健指導を行うためには、単なる講義の聴講や、ノウハウの伝達研修だけでは不十分である。特に近年、格差社会等の背景を受け、複雑困難な事例への対応が迫られることも増加しており、多様な場で活動する保健師同士の相互支援と情報共有の場や仕組みづくりが不可欠となる。

こうした背景を受け、本会では地域保健活動の普及と充実をはかることを目的に、平成20年度から、厚生労働省より「保健指導支援事業人材育成事業」を受託している。本会ではこの事業を、「保健指導ミーティング」として企画・開催され、今年で8年目を迎えた。

平成25年度からは、「保健指導ミーティング」の実践事例発表やグループ討議での事例検討を通じ、新任期保健師に対して、新任期に必要な個別事例のアセスメント能力が育成される契機となることを目指し、新任期及びプリセプター（指導）保健師を主対象に「保健指導ミーティング」を開催。平成26年度からは事例検討会の手法を提示し、保健指導ミーティングにとり入れることを推奨し開催することとした。

### 保健指導ミーティングについて

#### 1) 保健指導ミーティングとは

「保健指導ミーティング」は、①保健師の実践事例発表、②保健師同士のグループ討議を主たる内容とし、日本看護協会と各都道府県看護協会とが協働して企画・実施する事業である。

行政分野の保健師のみに留まらず、産業や医療・福祉・教育機関の保健師も含めて一堂に会し、お互いの実践を振り返り、スキルアップを図ることにより、保健師の専門性を発揮するための基盤強化を目指す研修プログラムである。

平成20年度～22年度は生活習慣病予防のみであったが、平成23年度からは、都道府県のニーズや実情に合わせて、母子、精神、介護予防、災害保健活動等についても本会独自に事業を実施している。

#### 2) 開催テーマ

保健指導ミーティングは現在2つのタイプに分け実施している。

**タイプ1**：生活習慣病予防(厚生労働省保健指導支援事業)

保健指導ミーティング開始にあたり、保健指導に従事する各領域の保健師が一堂に会し、保健指導のスキルアップを図るためには、各領域の保健師に共通のテーマであると考えられる「生活習慣病予防」をテーマとすることが有効であるとしたことから始まった。

**タイプ2**：その他（日本看護協会独自事業）

生活習慣病以外のテーマ、母子、精神、介護予防、災害保健活動等

## 2. 平成 27 年度実施の特徴

---

平成 27 年度については、平成 26 年度以前から引き続き、新任期の保健師及び指導保健師を主な対象とし、「保健指導ミーティング」を開催する。行政分野にとどまらず、地域包括支援センターをはじめ、産業、健診・医療機関、福祉等の領域で働く保健師への周知に力点を置き、参加保健師の領域の拡大を図る。

引き続き、本会が構築した手法を展開した事例検討会の開催を推奨する。また、各都道府県の取り組みを支援するためのツールとして、本会が 26 年度に作成した「ファシリテーターの手引き」を活用し、ファシリテーターの育成・効果的なグループワーク実践に取り組んでいただく。

### 3. 平成 27 年度実施状況

---

#### 1) 実施期間

平成 27 年 8 月～平成 28 年 1 月

#### 2) 保健指導ミーティングの公募について

##### (1) 公募期間

平成 27 年 6 月～7 月

##### (2) 募集要件

- ① 都道府県看護協会保健師職能委員会の企画であること
- ② 新任期保健師及びその指導保健師を主たる対象とした企画であること
- ③ 都道府県看護協会会長の理解が得られること
- ④ 都道府県の関係主管課と連携していること
- ⑤ 関係組織・団体と連携し、多様な活動領域（行政・地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、福祉、その他）の保健師が参加できるように、周知が図られること
- ⑥ 実施は平成 27 年 9 月から 1 月までに行うこと
- ⑦ 新任期保健師自らの保健指導の実践事例の検討会をプログラムに取り入れること
- ⑧ 保健指導ミーティングの評価を行うこと
- ⑨ 以下の点に留意した保健指導ミーティングを開催できること
  - ・本会が構築した事例検討会の手法をとり入れて、ミーティングが開催できること
  - ・指導保健師自らも学ぶことに加え、新任期保健師に対する今後の支援に活かすことができるよう配慮すること
  - ・新任期保健師と指導保健師が、事例検討を通して得た学びを発表・意見交換するようなグループ討議の進め方やファシリテーションの工夫を行うこと

##### (3) 結果

公募の結果、合計 16 道府県からの応募があった。

うち生活習慣病予防をテーマとした保健指導ミーティング（厚生労働省保健指導支援事業）は、3 県（栃木県、広島県、鹿児島県）で開催することとなった。

本報告書では、以降、上記 3 県について報告する。

### 3) 保健指導ミーティング開催県の開催日時・開催場所・会議名

	栃木県	広島県	鹿児島県
開催日時	2015/12/5(土) 10:00~16:00	2015/10/24(土) 10:00~15:00	2015/11/27(金) 10:00~16:00
開催場所	自治医科大学	広島県看護協会	鹿児島県看護協会
会議名	保健指導の探求と実践力を高める保健指導ミーティング	保健指導ミーティング	保健指導ミーティング

### 4) 実施結果

#### (1) 参加者の属性と延べ人数

(単位：人)

	栃木県 (新任期再掲)	広島県 (新任期再掲)	鹿児島県 (新任期再掲)	合計 (新任期再掲の合計)	割合(%)
行政	28 (14)	38 (19)	42 (11)	108 (44)	77.1 (80.0)
医療	2 (1)	4 (2)	2 (0)	8 (3)	5.7 (5.5)
産業	1 (0)	14 (7)	2 (1)	17 (8)	12.2 (14.5)
福祉	0 (0)	0 (0)	5 (0)	5 (0)	3.6 (0.0)
その他	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	1.4 (0.0)
①参加者合計 (新任期再掲)	31 (15)	58 (28)	51 (12)	140 (55)	100.0 (100.0)
②職能委員・ 運営スタッフ	14	14	13	41	-
	45	72	64	181	-

## (2) 企画・実施内容

### ①周知の工夫

栃木県	広島県	鹿児島県
<p><b>【会員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県協会ホームページ</li> <li>・行政、産業、医療、福祉、その他の保健師の所属する勤務先へ案内を郵送</li> </ul> <p><b>【非会員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県からのデータを元にメールにて周知</li> </ul>	<p><b>【会員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県協会ホームページ</li> <li>・会員施設へ開催案内を送付</li> <li>・職能委員からの呼び掛け</li> </ul> <p><b>【非会員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県産業保健研究会、広島県保健師研究協議会、広島県市町村保健活動協議会及び保健師長会へ開催案内を送付</li> <li>・広島県に勤務する保健師及び22市町（広島市を除く）への情報提供</li> <li>・広島市保健福祉局保健部保健医療課、8か所の保健センターへ情報提供</li> </ul>	<p><b>【会員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県協会から文書にてご案内</li> <li>・県協会ホームページ</li> <li>・県保健師長会より周知</li> </ul> <p><b>【非会員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内全市町村に文書にて通知</li> <li>・県保健師長会より周知</li> <li>・参加が少ない地域へ既存のネットワーク等を活用し周知</li> </ul>

### ②事前打合せ

	栃木県	広島県	鹿児島県
回数	4回	8回	4回
参加者	職能委員、講師	職能委員、コーディネータ、実践事例発表者	職能委員、コーディネータ
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践力アップ事例検討会の目的、手法について学習</li> <li>・保健指導ミーティング研修会の目的、進め方、講義内容、役割分担、進行の確認、事例検討会タイムスケジュールの検討等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割担当について</li> <li>・事例発表者の決定</li> <li>・事例検討の進め方</li> <li>・グループワークの進め方</li> <li>・発表者、ファシリテーター等の役割確認</li> <li>・当日プログラムの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の進め方について</li> <li>・当日の役割分担の検討</li> <li>・役割分担の決定</li> <li>・事例提供について（事例提供者、内容等）</li> <li>・当日の資料の確認</li> </ul>

### ③保健指導ミーティングのプログラム内容

	栃木県	広島県	鹿児島県
講演・講義	1名 特性に応じた保健指導を目指す 新任期の保健指導とは	1名 新任期保健師とともに育つ 保健師の人材育成	なし
事例発表	3事例	4事例	3事例
グループ討議 (構成)	8人×3グループ	12人×2グループ 11人×1グループ 9人×1グループ	9人×6グループ
グループ討議 (テーマ)	・保健指導ミーティングを受けて 気づいたこと、学んだこと ・新任期の保健師が求める望 ましい指導とは、本日学んだ 気づき	・事例検討会を实践して、ス キルアップを図ろう！ ① 講話を聴いての感想 ② 効果的な保健指導を するために	・異なる6つのテーマでのグ ループ討議を行った。
全体共有・ まとめ	2回	1回	2回

### ④実践事例発表で取り上げた事例

栃木県	広島県	鹿児島県
生活習慣の改善に踏み切れない糖尿 病予備軍男性への支援  他2事例	メンタル面に不調がある社員の特 定保健指導の取り組み方について  他3事例	「実践力UP事例検討会」南 さつま市の取り組みについて  他2事例



### (3) 評価

各県での開催にあたり、所定の書式（評価項目）を提示し、実施県の事務局に評価を依頼した。結果は以下のとおり。

#### <実施評価>

3県において、「新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができた」「様々な領域から新任期の保健師を集められた」「目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えた」ほか、全6項目で『非常にそう思う』（平均4.0）と評価した。

(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	評価点			平均
	栃木県	広島県	鹿児島県	
① 新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか	4	4	4	4.0
② 様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4	4	4	4.0
③ 数多くの保健師の参加が得られたか	4	4	4	4.0
④ 目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4	4	3	3.7
⑤ 目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4	4	4	4.0
⑥ グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4	4	4	4.0
⑦ ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4	4	3	3.7
⑧ プログラム内容は参加者に適したものであったか（参加者の反応等からの評価）	4	4	3	3.7
⑨ プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4	4	4	4.0

#### <結果評価>

「参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができた」「参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたった」「指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになった」「参加者の満足を得ることができた」「県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できた」については、平均3.7の評価だった。

(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	評価点			平均
	栃木県	広島県	鹿児島県	
① 新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4	3	3	3.3
② 新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4	3	3	3.3
③ 参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4	3	4	3.7
④ 参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4	3	4	3.7
⑤ 参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4	3	3	3.3
⑥ 参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4	3	3	3.3
⑦ 指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4	3	4	3.7
⑧ 参加者の満足を得ることができたか	4	3	4	3.7
⑨ 県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか	4	3	4	3.7

## <企画評価>

3県とも、「目的・目標について関係者間で事前共有できていた」「企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られた」については『非常にそう思う』（平均4.0）と評価した。一方、「開催時期・開催場所・実施時間は適切だった」「多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だった」については、2県が『ややそう思う』（平均3.3）と評価した。

(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	評価点			平均
	栃木県	広島県	鹿児島県	
① 新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4	3	4	3.7
② 保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4	3	3	3.3
③ 多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4	3	4	3.7
④ 多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	4	3	3	3.3
⑤ 事業の目的・目標の設定は適切だったか	3	4	4	3.7
⑥ 目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4	4	4	4.0
⑦ 事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4	3	4	3.7
⑧ 企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4	4	4	4.0
⑨ 関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4	3	4	3.7

#### (4) 3 県から出された考察とまとめ(抜粋)

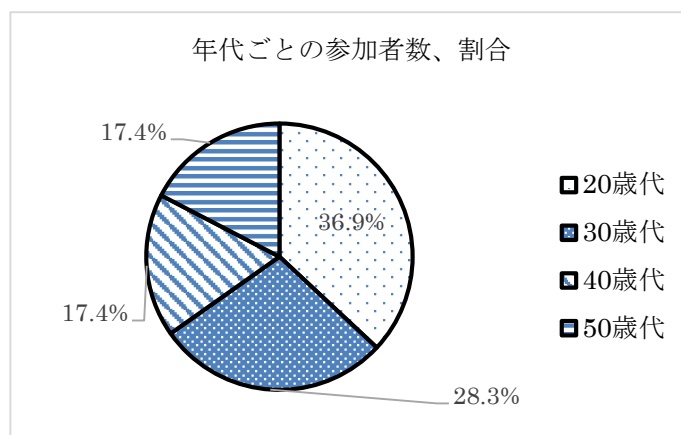
栃木県
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現在、県内 1 カ所で開催している研修だが、地域単位で開催することで参加しやすい環境を整え保健指導ミーティングの経験者を増やすことができると考える。</li><li>・ 実践力アップ事例検討会では、参加者の多くが職場に持ち帰り実践したいという感想を持ちながらも自信を持って開催するまでには至らず、ファシリテーターの育成も課題であると感じた。</li><li>・ 本事業は、保健師のスキルアップ並びにネットワーク強化につながるため、管理期にある保健師にも事業目的や効果を理解していただき継続していくことが必要である。</li></ul>
広島県
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保健指導ミーティングに参加された人はこの手法をぜひ自分の職場でも実施したいという思いが強いということがわかった。各職場で実施していくためには何が必要かをみつけ、各職場で展開できるためのサポート体制づくりが課題と思った。</li><li>・ 新任期保健師の気付きを促すには効果的である。またプリセプター保健師にとっても、色々な視点での意見を得ることができるのが良かった。多職種に拡大すると、複雑な事例に対しても使える手法だと感じた。</li><li>・ 職域を越えた保健師間ネットワークや、お互いの活動を知り連携が取れるようにするためには、このような場を継続して行くことが必要と感じる。</li><li>・ 所属や経験年数が異なる保健師が、事例検討を通してお互い学びあう機会が持て、とてもよい刺激になった。</li><li>・ 保健指導ミーティングのプログラム、事例検討実施後の講義の方式は、非常にわかりやすく学びの整理がしやすかった。そのため、各ステージの保健師が自身のスキルを振り返るための意義が大きいと感じた。</li></ul>
鹿児島県
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今年度は昨年度の保健指導ミーティング開催を受け、実際に現場で事例検討会に取り組んだ自治体からの実践報告を取り入れた内容でバージョンアップして開催した。前年度の取り組みを踏まえ、一歩進んだ内容で実施できたのではないかと思う。</li><li>・ 手法を学ぶことと手法を実際に現場で実践するために必要なことを考えることができた。</li><li>・ 県保健師長会、県、コーディネータと企画初期から積極的に連携し、効果的なミーティングが実施できるよう計画した。今回をきっかけに関係機関がより密に連携し、保健師人材育成に取り組んでいけると良い。</li><li>・ グループ編成を地域別にしたことで、地域内での保健師ネットワークの形成につながった。今後は、今回の参加者を軸として、地域振興局単位で事例検討会に取り組む体制を整備したいと考えており、来年度は、地域別での研修開催を計画予定。</li></ul>

## (5) 参加者アンケートの実施結果(県共通項目で実施)

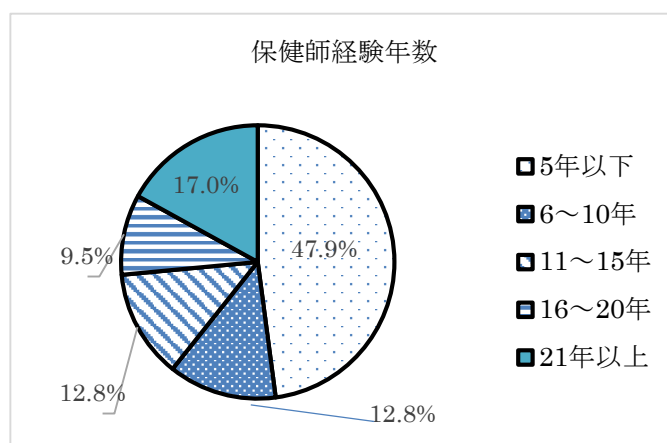
参加者アンケートの結果を以下に示す。(使用アンケート質問紙は「資料」参照)

### ① 参加者数および参加者の属性について

- アンケート協力者は、職能委員・運営スタッフを除いた140名中104名で、回答率は74%であった。
- 女性は102名(98%)、男性2名(2%)であった。
- 記載のあった92名の年代は、20代34名(36.9%)、30代26名(28.3%)、40代16名(17.4%)、50代16名(17.4%)、60代以上の参加者はいなかった。



- 職種は、記載のあった104名中保健師が101名で、助産師1名、その他が2名だった。
- 保健師経験年数は、回答者94名中、5年以下が45名(47.9%)、6～10年が12名(12.8%)、11～15年が12名(12.8%)、16～20年が9名(9.5%)、21年以上が16名(17.0%)であった。



- 保健師の所属は、回答者98名中、市町村が47名(48.0%)と最も多く、次いで、都道府県型保健所14名(14.3%)、企業・事業所10名(10.2%)、都道府県、保健センター、地域包括支援センター、健診センター・労働衛生機関が各5名であった。そのほか、病院4名、その他3名だった。

## ②参加者の回答状況

- ミーティングに参加した理由(複数回答)

最も多かったのは「保健指導のスキルアップをしたい」が62名、「興味のあるテーマ」が44名であった。

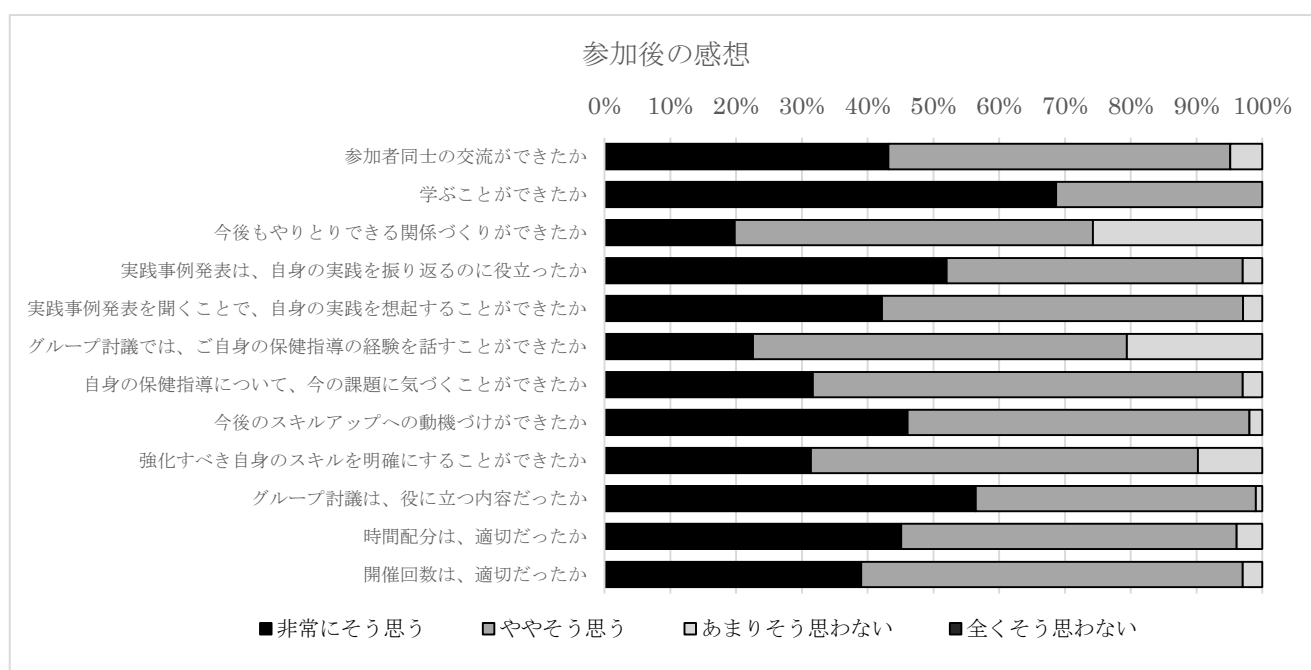
保健師ミーティングに参加した理由(複数回答)

(人)

保健指導のスキルアップをしたいから	62
興味あるテーマだったから	44
日々の保健活動に課題を感じているから	32
自分の実践を振り返る機会を持ちたかったから	30
同じ職種や違う職種と交流したかったから	26
友人・同僚に誘われたから	19
参加費が無料だったから	16
興味ある講師等だったから	14
毎年継続的に参加しているから	1
いつも看護協会の研修を受けているから	0
その他	15

- ミーティングへの参加後の感想(複数回答)

- ・ 「学ぶことができた」、「グループ討議が役に立った」、「今後のスキルアップへの動機づけができた」については『非常にそう思う』と『ややそう思う』とした回答を合わせると100%近かった。
- ・ 参加者が『非常にそう思う』と回答した項目は、「学ぶことができた」が最も多く、「グループ討議が役に立った」「実践事例発表は、自身の実践を振り返るのに役立った」との回答が続いた。



#### 4.平成 27 年度 各県(3 県)のミーティング実施結果のまとめ

---

##### 1) ミーティングの実施状況

- 今年度の保健指導ミーティングの参加者は 140 名、これに職能委員や運営スタッフ 41 名を含め、総勢 181 人が参加した。
- 行政分野からの参加者が 77.1%と最も多く、他の領域からの参加は産業(12.2%)、医療(5.7%)、であった。
- 開催回数は、3 県とも 1 回で、午前午後を通して 1 日開催であった。
- 開催県の 3 県のうち 2 県、広島県と鹿児島県については、昨年引き続き、生活習慣病をテーマにした保健指導ミーティングの開催となった。

##### 2) 企画や周知について

- 3 県とも開催前の事前打合せとして、職能委員を中心にコーディネータ・講師・実践事例発表者を交えた打合せを実施し、プログラム・企画の内容について検討が行われた。
- 参加の周知については、県協会ホームページをはじめ、会員名簿を活用したほか、県との連携による非会員への周知を図っていた。
- 職能委員長や職能委員による直接の呼びかけが行われていた。

##### 3) 各県でのプログラムの内容

- 2 県については昨年に引き続き、事例検討会の開催となったが、事前の打合せ・シミュレーションをしっかりと行い、運営もスムーズであった。
- 事例検討会の後には、事例検討会を体験しての感想や課題について意見を出し合うグループ討議の時間が設けられていた。
- 鹿児島県の開催では、ワールドカフェスタイルのプログラムが組み立てられていて、保健師間のつながりや交流を図る工夫がなされていた。
- 事例は生活習慣病をテーマとしたもののほかに、精神保健や母子保健をテーマとしたものが取り上げられていた。

##### 4) ミーティングの評価・効果等について

- 実施評価において、栃木県と広島県では「新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができた」「様々な領域から新任期の保健師を集められた」ほか全項目で『非常にそう思う』と評価した。鹿児島県においても「目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか」ほか 3 項目では『ややそう思う』の評価にとどまったが、その他の項目では『非常にそう思う』と評価した。ここ数年の開催での事例検討会の手法の普及、ファシリテーターの役割の理解、効果的なグループワーク実践に取り組んだ結果と考えられる。
- 結果評価については、各県とも『非常にそう思う』よりも、『ややそう思う』との評価が目立った。グループワークのメンバーを構成するときに、参加者の経験年数を考慮し、交流が行える工夫がなされていた。

- 企画評価において、「目的・目標について関係者間で事前共有できていた」「企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られた」について、『非常にそう思う』と評価していた。プログラムを企画する段階で、事前の打合せを綿密に行い情報共有に努めていたため、同じ目的を共有して開催することができていた。
- 昨年に引き続きの事例検討会の開催となった2県については、昨年の開催を踏まえて反省点・改善点を実践した形での開催となった。開催を重ねていくことによる今後のさらなる精錬が期待される。
- 保健師のネットワーク形成につながったとする声もあった一方で、1日の短い時間だけではなかなか実践的なネットワーク作りまでは難しいというアンケート結果もあったため、参加者同士のネットワーク形成には、今後も工夫の必要がある。

## 5. 今後の保健指導ミーティングの開催に向けて

---

### 【今年度の実施】

新任期保健師を主な対象とした保健指導ミーティングの企画実施にあたっては、グループワークの円滑な実施とファシリテーターの育成が重要であることを鑑み、平成 25 年度に本会が開発した実践力 UP 事例検討会の手法を展開し、開催を推奨してきた。

また、各都道府県の開催を支援するためのツールとして、本会が 26 年度に作成した「ファシリテーターの手引き」を活用し、ファシリテーターの育成や効果的なグループワークの実践に取り組んでいただいた。

### 【課題】

各県が工夫し保健指導ミーティングを実施した中で、以下については今後の課題と考えられた。

#### 1. 事例検討会（グループワーク）の進め方

昨年からの引き続きの開催となった 2 県については、全体としては、昨年よりも精練された開催となった印象だった。ただ、参加者のアンケートや企画者の評価結果からは、参加者自身の保健指導の経験を話すことを自信を持って行えたとは言えない状況もあることがわかった。

新任期保健師と指導保健師が、事例検討を通して得た学びを発表・意見交換できるよう、引き続き、ファシリテーターの育成・より効果的なグループワーク実践の取り組みが必要である。

#### 2. 参加者のネットワーク構築

県の担当課との連携も含め、連絡会や勉強会等での周知など様々な工夫が見られた。また、昼休憩の時間を有効に活用し、参加者同士のネットワークづくりが行えるような工夫も見られた。

一方、限られた時間であるため、今後に繋がるようなネットワークづくりまでには至らなかったという声もあり、新任期保健師・中堅期保健師等が気遣いなく話し合える時間のさらなる確保や、情報交換が課題として残った。

#### 3. その他

広島県以外では、「産業分野」の保健師の参加が少なく、今後の課題である。

### 【今後の保健指導ミーティング開催に向けて】

今後の保健指導ミーティングの開催に向けては、以下が必要と考えられる。

#### 1. 事例検討会の進め方についての周知・徹底

開催県からのアンケート結果より、プログラムの企画時に、事例検討会の進め方が難しいという声もあったため、過去の開催において事例検討会を効果的に進めている県の好事例について、県の担当者が集まる全国会議等の場を活用した説明会を行うなど、更なる情報提供・後方支援を行う。

#### 2. 効果的なグループワークを進めるためのファシリテーターの引き続きの育成

本会職員の視察により、効果的なグループワーク実践の後方支援を行う。開催当日のファシリテーターへのサポートのみでなく、県の事前打合せにも参加し、ファシリテーター育成に努める。

#### 3. 保健師同士が話し合える環境や時間の設定のさらなる工夫

開催県がプログラムを企画する段階から、所属や経験年数が異なる新任期保健師・指導保健師が活発に情報交換できるような開催・プログラムにつなげる情報提供を行う。過去の開催好事例からモデルとなるプログラム・事例を提供するなど、1. 2. と連動し、より良いプログラム企画につなげる。



## 6. 保健指導ミーティング 県別実施報告

栃木県

## 保健指導ミーティングの企画

◎保健指導ミーティングの企画について、設定した目的・目標と、企画・準備のための事前打合せの概要、保健指導ミーティングの周知方法等についてご記入ください。

### 目的

- ① 新任期の保健師が実践事例をとおして、保健指導や支援のあり方を検討することで保健指導のスキルアップを図る。
- ② 新任期の保健師を指導するプリセプターの役割を果たす中堅期の保健師が、新任期保健師の実践事例の検討に加わり助言することで新任期の保健指導のあり方を考える。
- ③ 階層や職域を超えた保健師間のネットワークの強化を図る。

### 目標

- ① 実践力アップ事例検討を実施し体験することでアセスメント能力を身につけ、具体的な支援計画の策定ができるようになる。
- ② 実践力アップ事例検討を実施し体験することで事例への対応力、応用力を身につける。
- ③ 参加者が自分自身の保健指導を振り返ることができる。
- ④ 保健指導を意識化する（語る）ことができる。
- ⑤ 各々が強化しなければならない保健指導スキルに気づく。

### 保健指導ミーティングのための事前打合せ

※追加の場合は表をコピーしてご利用ください。

保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
【実施日】 H27/9/18 1時間程度 (10:00-11:00)	【実施者】 職能委員：深津、田沼、戸叶、畠田、根岸、福田 計6名
	【実施理由】 保健指導ミーティングの日程・会場・運営方法等の決定及び実践力UP事例検討の実施方法について検討のため。
	【内容】 ・会場の決定、実施時期、運営方法、講演内容及び事業計画の確認 受講対象は原則、新任期保健師（5年目まで）、中堅期6年~20年までとする。 実践力アップ事例検討会は生活習慣病、介護予防、母子、精神の4グループとする。 県医療政策課との共催による開催の調整 ・実践力アップ事例検討のデモンストレーション計画。
【実施日】 H27/10/9 1.5時間程度 (9:30-11:00)	【実施者】 職能委員：深津、田沼、戸叶、畠田、根岸、福田、鈴木、中山、根本 計：9名
	【実施理由】 実践力アップ事例検討会の進め方及び実践方法についての体験。
	【内容】 ・実践力アップ事例検討会の目的、手法について学習 ・実践力アップ事例検討の実施（ホワイトボードを使用したロールプレイの実施） ・研修の進め方、演習の時間配分、資料内容の決定。
保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
【実施日】 H27/10/19 2時間程度 (14:00-16:00)	【実施者】 講師・職能委員：深津、畠田 計：3名
	【実施理由】 実践力アップ事例検討会及び保健指導ミーティングの講義及び会場借用依頼
	【内容】

	保健指導ミーティング研修会の目的、進め方、講義内容、役割分担、進行の確認、事例検討会タイムスケジュールの検討等。
保健師職能委員会 (※名称が違う場合は変更してください)	
【実施日】 H27/11/19 1.5 時間程度 (15:30-17:00)	【実施者】 職能委員：深津、田沼、戸叶、畠田、根岸、福田、鈴木、根本 計：8名
	【実施理由】 保健指導ミーティングの進め方及び役割分担
	【内容】 ・実践力アップ事例検討は、母子、精神、生活習慣病の3グループに分ける。 ・提供事例の確認 ・資料の確認 ・タイムスケジュールの確認及びグループ分けの基準決定

## 周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫されたことについてご記入ください。
<p>(1)会員に対する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施要項を栃木県看護協会のホームページにアップし広く周知</li> <li>・行政、産業、医療、福祉、その他の保健師の所属する勤務先（会員外も含む）に看護協会から郵送にて開催通知を送付し周知。</li> </ul>
<p>(2)非会員を含めた取り組み</p> <p>2年に1回実施する従事者届けの送付先を県に依頼しデータを取得。そのデータを活用し開催通知をメールにて保健指導主任者あて送付。</p>

## 保健指導ミーティングの実施

◎実施した保健指導ミーティングのプログラム構成、実践事例発表の概要、グループ討議の概要・工夫点等についてご記入ください。

プログラム構成

◆プログラム（複数開催の場合は1回目、2回目のプログラムがわかるように記入してください）

※「関連する目標」の欄には、p2に記載したどの目標を達成するためのプログラムかを番号(①、②・・・)にてご記入ください。

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:10~11:40	1 実践事例発表 ① 生活習慣の改善に踏み切れない糖尿病予備軍男性への支援 発表者：真岡市健康増進課 小林千鶴 ② 治療中断の統合失調症男性への支援 発表者：県北健康福祉センター 二野屏美佳 ③ 養育能力の低い母とASD疑い児への支援 発表者：上三川町健康課 江口 彩 2 グループ討議 情報の整理、アセスメント、確認すべき情報の整理、支援の方向性の確認、振り返り（評価）	① ② ③
11:40~12:00	発表：グループワークの討議内容を全体に発表	④
12:00~13:00	休憩	
13:00~14:20	講話 「特性に応じた保健指導を目指す新任期の保健指導とは」講師：自治医科大学 看護学部 学部長 春山早苗	③ ④ ⑤
14:20~14:30	休憩	
14:30~15:30	グループ討議 ・保健指導ミーティングを受けて気づいたこと、学んだこと ・新任期の保健師が求める望ましい指導とは、本日学んだ気づき	③ ④ ⑤
15:30~15:50	発表：グループワークの討議内容を全体に発表	③④⑤
15:50~	講師コメント助言	⑤
16:00	閉会	

## 実践事例発表

※複数の実践事例発表を行った場合は、表をコピーして記入してください。

※実践事例発表の資料は別途添付してください。

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約5年	
(3)発表タイトル：生活習慣の改善に踏み切れない糖尿病予備軍男性への支援	
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約3年	
(3)発表タイトル：治療中断の統合失調症男性への支援	
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約4年	
(3)発表タイトル：養育能力の低い母とASD疑い児への支援	

## グループ討議

※複数テーマでグループ討議を行った場合は、表をコピーしてご利用ください。

構成	6～8人 × 3グループ
討議の テーマ	<b>実践力アップ事例検討</b> 保健師が自らの保健指導を振り返りながら、事例の情報整理、アセスメント、具体的な支援策を検討する一連の課程を学ぶ。
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討を円滑に進めるために事前学習会を開き、実践力アップ事例検討の学びを深めた。</li> <li>事例提供者とファシリテーター、書記の事前打合せを実施した。</li> <li>タイムスケジュールを見やすいところに貼付し円滑な討議となるよう確認しながら進行した。</li> <li>テーマを記したマグネット式張り紙を作成し、検討内容を確認しやすくした。</li> <li>実践力アップ事例検討会の共通理解を図るため、事例検討前に目的や進め方について具体的に説明した。</li> <li>コーディネーターが各グループの進行状況を確認しながら進行した。</li> <li>参加者全員が事例検討に積極的に参加できるよう、全員が対等に発言できるような雰囲気をつくり、声かけに注意した。</li> <li>参加者が発表された実践事例の理解が深まるよう事例の状況現象についての質問時間を多くとった。</li> <li>ファシリテーターが、他の人の発言に耳を傾ける、否定的にならない、非難</li> </ul>

	<p>しないよう声かけを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の学びが深まるよう参加者全員に振り返りを促した。</li> <li>・実践力アップ事例検討会が活用できるようホワイトボードに板書した記録物を写真に写し印刷しグループごとに配付した。</li> </ul>
<b>構成</b>	<b>6人～8人 × 3グループ</b>
<b>討議の テーマ</b>	<p><b>実践力アップ事例検討を体験して、気づいたこと学んだこと</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自らの保健指導を振り返り、どのような場面で支援の壁を感じるか気づいたことを共有する。</li> <li>② 今後どのように取り組んでいくか。保健指導で改善したい点や具体的な行動。</li> <li>③ 新任期としてプリセプターの手伝いが必要なことは？ プリセプターと新任期保健師に支援できることは？</li> <li>④ 本日学んだ気づき 新任期：保健指導ミーティングを受けて気づいたこと、学んだこと プリセプター：新任期の保健師が求める望ましい指導とは</li> </ol>
<b>討議で 工夫した点</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 話しやすい環境作りのため、新任期とプリセプターでグループ分けをした。</li> <li>② 新任期保健師のグループワークがスムーズに進むよう、職能委員が話題づくりをするなどきっかけ作りを配慮した。</li> <li>③ 新任期保健師、プリセプターそれぞれの学びについて確認できるよう振り返りの時間を確保した。</li> <li>④ 参加者同士のネットワークが構築できるよう情報交換の時間にも留意した。</li> </ol>

## 保健指導ミーティングの評価

◎保健指導ミーティングの評価について、3つの視点（実施評価／結果評価／企画評価）でご記入ください。

◎「企画評価」では、「実施評価」「結果評価」の結果を総括した評価をご記入ください。

### 実施評価

※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

#### 【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	④ 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	④ 3 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	④ 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	④ 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだったか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1
<b>考察</b>	

結果評価

※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

<p><b>【評価基準】</b></p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	④ 3 2 1 
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	④ 3 2 1 
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	④ 3 2 1 
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	④ 3 2 1 
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	④ 3 2 1 
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	④ 3 2 1 
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	④ 3 2 1 
⑧参加者の満足を得ることができたか	④ 3 2 1 
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	④ 3 2 1 
<b>考察</b>	



※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

<b>【評価基準】</b>
4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 ③ 2 1 └──┬──┬──┘
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
考察	
<p>研修会の開催時期や場所、実施時間は適切だった。</p> <p>新任期保健師の参加は多かったが中堅期保健師の参加が少なく、研修内容の見直しが必要である。</p> <p>研修会の企画から県、大学など必要な人材の協力を得ることができ、関係機関との連携強化が図れた。</p>	

## まとめ

◎保健指導ミーティングの評価をふまえて、まとめやご意見等をご記入ください。

### まとめ

現在、県内1カ所で開催している研修だが、地域単位で開催することで参加しやすい環境を整え保健指導ミーティングの経験者を増やすことができると考える。

実践力アップ事例検討会では、参加者の多くが職場に持ち帰り実践したいという感想を持ちながらも自信を持って開催するまでには至らず、ファシリテーターの育成も課題であると感じた。

今回提出された事例はいずれも処遇困難事例であったため、事例検討の中でアセスメントを言語化する難しさも痛感した。このことから検討事例はあまり複雑でなく経過がシンプルなものが良いと考える。

本事業は、保健師のスキルアップ並びにネットワーク強化につながるため、管理期にある保健師にも事業目的や効果を理解していただき継続していくことが必要である。

広島県

## 保健指導ミーティングの企画

◎保健指導ミーティングの企画について、設定した目的・目標と、企画・準備のための事前打合せの概要、保健指導ミーティングの周知方法等についてご記入ください。

目的

- ④ 新任期及び中堅期（プリセプター）の保健師が事例を通して自分自身の保健指導を振り返り、今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ⑤ 職域を越えた保健師間のネットワークづくりの契機とする。

目標

- ⑥ 新任期、中堅期保健師の保健指導のスキルアップを図る。
- （ア）新任期保健師  
実践事例を通して保健指導を振り返り、今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- （イ）中堅期保健師  
保健指導実践事例を通して自分自身および新任期保健師への指導について振り返ることができる。自分自身の強みを見つけ、今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ⑦ 職域を超えてお互いの活動を知ることができ、保健師間で連携がとれる機会となる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

※追加の場合は表をコピーしてご利用ください。

保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
【実施日】 H27/4/11 1時間程度 (15:30-16:30)	【実施者】 職能委員：7名 <span style="float:right">計：7名</span>
	【実施理由】 平成27年度保健指導ミーティングの開催に向けてのスケジュールの確認及び講師の決定
	【内容】 ・講師 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授 中谷久恵氏に3月内諾を得る。 ・事前打合せの日程について講師と調整を行う。 ・平成27年年度の講義テーマについて、次回委員会までに考える。 ・事例報告者候補を考える。
保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
【実施日】 H27/5/9 1時間程度 (15:40-16:00)	【実施者】 職能委員：7名 <span style="float:right">計：7名</span>
	【実施理由】 講師との事前打合せの日程調整の報告及び平成26年度保健指導ミーティングの開催実施報告の確認
	【内容】 ・講師、事例発表者との事前打合せの日程調整の報告 ・平成26年度保健指導ミーティングの開催実施報告の閲覧
保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
【実施日】 H27/6/20 1時間程度 (15:00-16:00)	【実施者】 職能委員：8名 <span style="float:right">計：8名</span>

	<p>【実施理由】 保健指導ミーティング企画募集及び実施要領（案）の検討をする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度保健指導ミーティング企画募集の内容確認</li> <li>・平成 27 年度保健指導ミーティング実施要領（案）の検討</li> <li>・事例発表者候補について</li> </ul>
保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
<p>【実施日】 H27/7/11 1 時間程度 (16:00-17:00)</p>	<p>【実施者】 職能委員：7 名 <span style="float: right;">計：7 名</span></p> <p>【実施理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導ミーティングの広報・予算について検討する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導ミーティングの実施要領・案内チラシについて</li> <li>・企画（案）・予算（案）の検討</li> <li>・役割担当について</li> </ul>
保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
<p>【実施日】 H27/8/8 1 時間程度 (15:00~16:00)</p>	<p>【実施者】 職能委員：6 名 <span style="float: right;">計：6 名</span></p> <p>【実施理由】 事前打合せの準備、保健指導ミーティングの動画視聴し、役割の確認をする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例発表者の決定、</li> <li>・事前打合せの進め方について</li> <li>・ファシリテーター等の役割分担</li> <li>・保健指導ミーティングの動画視聴</li> </ul>
保健指導ミーティング事前打合せ	
<p>【実施日】 H27/9/12 1 時間程度 (13:00-14:30)</p>	<p>【実施者】 職能委員：6 名 コーディネータ:1 名 実践事例発表者：3 名 <span style="float: right;">計：10 名</span></p> <p>【実施理由】 コーディネータおよび実践事例発表者との事前打合せを行い、当日の運営が円滑に実施できるようにする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討の進め方</li> <li>・グループワークの進め方</li> <li>・事例の概要の確認</li> <li>・発表者、ファシリテーター等の役割確認</li> <li>・保健指導ミーティングの動画視聴</li> <li>・新任期人材育成の意見交換</li> </ul>
保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
<p>【実施日】 H27/9/12 1 時間程度 (14:30-15:30)</p>	<p>【実施者】 職能委員：6 名 <span style="float: right;">計：6 名</span></p> <p>【実施理由】 保健指導ミーティングのアンケート、プログラムの検討</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート用紙の検討</li> <li>・当日プログラムの検討</li> <li>・保健指導ミーティング終了後の実践活用についてのアンケートについての検討</li> </ul>
保健師職能委員会（※名称が違う場合は変更してください）	
<p>【実施日】 H27/10/3 1 時間程度</p>	<p>【実施者】 職能委員：5 名 <span style="float: right;">計：5 名</span></p>

(14:30-15:30)	【実施理由】 保健指導ミーティングの進行・運営の確認
	【内容】 ・参加予定者数の確認 ・グループ編成の確認 ・修正したアンケート当日プログラムの確認 ・会場準備、必要物品の確認

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫されたことについてご記入ください。

(1)会員に対する取り組み

(例)会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ・県協会ホームページに保健指導ミーティングの開催を掲載した。
- ・会員施設へ保健指導ミーティングの開催案内を2か月連続で送付し周知をした。
- ・職能委員が所属施設に参加を呼び掛けた。

(2)非会員を含めた取り組み

(例)職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

- ・広島県産業保健研究会、広島県保健師研究協議会、広島県市町村保健活動協議会及び保健師長会（広島県支部・広島市支部）会長へ保健指導ミーティングの開催案内を送付し周知した。
- ・広島県保健師研究協議会からの通知を受け、広島県健康福祉局総務課から、広島県に勤務する保健師及び22市町（広島市を除く）への情報提供を実施した。
- ・広島市は広島市保健福祉局保健部保健医療課と8か所の保健センターへ情報提供を実施した。

## 保健指導ミーティングの実施

◎実施した保健指導ミーティングのプログラム構成、実践事例発表の概要、グループ討議の概要・工夫点等についてご記入ください。

プログラム構成

◆プログラム（複数開催の場合は1回目、2回目のプログラムがわかるように記入してください）

※「関連する目標」の欄には、p2に記載したどの目標を達成するためのプログラムかを番号(①、②・・・)にてご記入ください。

時間	プログラム	関連する目標
10:00～	挨拶 (公社) 広島県看護協会 会長 才野原照子	
10:05～	オリエンテーション 保健師職能委員長 久岡桂子	
10:15～	グループワーク事例検討会 実践事例発表①「2型糖尿病 度々受診を中断し、血糖コントロール不良な社員への支援に関する事例」 発表者：中国電力(株)人材活性化部門 第一健康管理センター 矢富悦子 実践事例発表②「メンタル面に不調がある社員の特定保健指導の取り組み方について」 発表者：NTT 西日本中国健康管理センタ 藤村瑠美 実践事例発表③「近隣、親戚とも付き合いはなく、サービス導入にも拒否的な統合失調症の男性とその母親への支援」 発表者：福山市役所 松永支所 山根絵梨香 実践事例発表④「長期治療や禁煙のストレスで治療中断及び多量飲酒等の問題行動のあった事例」 発表者：広島県東部保健所福山支所 田口千明	
11:15～11:20	休憩	
11:20～11:50	グループワーク 「①事例検討をしてみた感想」 「②事例検討会を継続するためには」	
11:50～12:50	昼食・休憩	
12:50～13:50	講話「新任保健師とともに育つ保健師の人材育成」 講師 広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 教授 中谷久恵	
13:50～14:00	休憩	
14:00～14:40	グループワーク 「事例検討会を実践して、スキルアップを図ろう！」 ①講話を聴いての感想 ②効果的な保健指導をするために	
14:40～15:00	発表・講評 広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 教授 中谷久恵	
15:00	閉会 アンケート記入	

## 実践事例発表

※複数の実践事例発表を行った場合は、表をコピーして記入してください。

※実践事例発表の資料は別途添付してください。

### ①生活習慣病予防

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（産業）：	中国電力(株)人材活性化部門 第一健康管理センター
(2)事例発表者の保健師経験年数：	約 13 年（育児休暇含む）
(3)発表タイトル：	2 型糖尿病 度々受診を中断し、血糖コントロール不良な社員への支援に関する事例

### グループ討議

構成	12 人 × 1 グループ
討議のテーマ	本人が治療を継続し、血糖コントロールが良好になるためにどのような支援をすべきか。
討議で工夫した点	<p>討議のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療が中断となるきっかけは何か。</li> <li>・このケースの強みを明確にし、治療意欲につなげることができるか。</li> <li>・家族、職場の協力を得るために必要なことは何か。</li> <li>・皆の発言をもらさずポイントを項目毎に解りやすく整理して書くようにし全員で確認しながら進めた。</li> <li>・情報や出された意見を共通認識できるように大切な事は協調や色分けをしたりして全員が気付きやすいようにした。</li> <li>・事例発表者が、今後どのような働きかけをしていくかを確認することができた。</li> </ul>

### ②生活習慣病予防

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（産業）：	NTT 西日本中国健康管理センタ
(2)事例発表者の保健師経験年数：	1 年
(3)発表タイトル：	メンタル面に不調がある社員の特定保健指導の取り組み方について

### グループ討議

構成	11 人 × 1 グループ
討議のテーマ	メンタル面に不調がある社員の特定保健指導の取り組み方について
討議で	・あらかじめ、ホワイトボードに事例の概要をできるだけ書き出したので、参加者



工夫した点	<p>が見えやすいように前に寄って座ってもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初にグラウンドルールの確認を行うことで、前向きな意見を出してもらえた。</li> <li>・ファシリテーターが各 STEP の順を追って話題の転換を行い、意見の整理や確認を行うことで、参加者も情報の整理が行いやすかった。</li> <li>・ファシリテーターがゆったりと構えることで、参加者が自分の意見を言いやすい雰囲気を作られ、指名しなくても全員に発言をしてもらえた。</li> </ul>
-------	---

### ③精神保健

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（行政）：福山市役所 松永支所	
(2)事例発表者の保健師経験年数：4年	
(3)発表タイトル：近隣、親戚とも付き合いはなく、サービス導入にも拒否的な統合失調症の男性とその母親への支援	

### グループ討議

構成	9人 × 1グループ
討議のテーマ	<p>介入のタイミングはいつか（何を切り口に介入するか）</p> <p>本人、家族の願いはなにか（予測と事実を明確にする）</p>
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任期の保健師の割合が多かったので、発言をしやすい促しや、促しのタイミングに配慮し、グループ員全員に発言をしてもらった。</li> <li>・事例発表者が気付いていない視点、情報の整理の仕方、支援の方法について、ベテラン参加者から意見を引き出すようにした。</li> <li>・時間管理をし、アセスメントに時間をかけた。</li> <li>・意見交換の中で出てきたキーワードに着目して意見を求める工夫により、参加者の考えがまとまりやすかった。</li> <li>・発言された言葉で短く記録するよう気を付けた。</li> </ul>

### ④感染症

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（行政）：広島県東部保健所福山支所	
(2)事例発表者の保健師経験年数：1年	
(3)発表タイトル：長期治療や禁煙のストレスで治療中断及び多量飲酒等の問題行動のあった事例	

構成	12人 × 1グループ
討議の テーマ	結核の保健指導をしたい保健師に対して、相手は保健指導により日常生活が制限されることにストレスを感じ問題行動を起こしてしまう。どのように対応すればよいか。
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例発表者、ファシリテーター、板書係で本事例の経過の確認、事例発表者が重要だと思っている点を確認しながら板書の準備を行った。その際、事例発表者の緊張をほぐすように会話を多く実施した。</li> <li>・12名と人数が多かったが、サークルになり全員の顔が見えるようにイスを配置した。その際、隣の人との距離を近づけ一体感を持たすようにした。</li> <li>・保健師の思いだけでなく、なぜ相手がそのような行動を取ってしまうのか、相手の気持ちや、特性に合わせた保健指導に事例発表者が気付くよう、参加した保健師から広く意見が出るよう発言を促した。</li> </ul>

## 保健指導ミーティングの評価

◎保健指導ミーティングの評価について、3つの視点（実施評価／結果評価／企画評価）でご記入ください。

◎「企画評価」では、「実施評価」「結果評価」の結果を総括した評価をご記入ください。

### 実施評価

※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

#### 【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	④ 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	④ 3 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	④ 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	④ 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだったか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1

#### 考察

・事例発表者は、きちんと事例をまとめて発表できた。参加保健師の所属や経験も多様で、それぞれの立場から発言ができていた。事例発表者に「責められ感」がないのが良かった。グラウンドルールの共有ができたのが良かった。

・事例発表者が、当初目標について明確化できていなかったが、グループ討議を通して、自分の目標設定について気づきを持った様子だった。

事例発表者本人の問題・課題と感じている点と対象者自身が問題と思っている点が異なること、対象者の思いをしっかりと言葉として確認できていないこと、目標は発表者のものではなく、対象

者のものであるべきだということなど、事例発表者だけでなくグループ討議参加者が気付けた。

・定員より多い参加申し込みに対し、グループ数を増やす、広い会場に変更する等柔軟な対応をし、参加者にとって有用なミーティングを開催することができたが、1グループの人数が12名と多かったため、参加者一人ひとりの発言はできたものの、一人当たりの発言数は少なめとなり、一体感が持ちにくかった面もある。

・昨年度に引き続き2年目の実施であるため、スタッフは要領を得ており、ファシリテーターの進行もスムーズで時間内に方向性までを出すことができ、継続することの大切さをスタッフとしても大いに感じた。事例発表者及び関係者が事前の打合せを丁寧に行うことで、進行もしやすかった。

また、研修参加にあたりテキストの準備を促したためか、グラウンドルールや事例検討会の手法についての理解が早く、スムーズな進行ができた。

実際に体験をすることでこの手法による事例検討会形式が、忙しい業務の中でも取り入れられそうであるという印象を持ってもらった。

※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

<p><b>【評価基準】</b></p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 (3) 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 (3) 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 (3) 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 (3) 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 (3) 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 (3) 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 (3) 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 (3) 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 (3) 2 1
<b>考察</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の保健指導の振り返りや新たな発見ができた。</li> <li>・事例発表者の満足度は高かったと思う。グループ内から出た意見は、事例発表者だけでなく他の参加者にも有益だった。</li> <li>・1つの事例に対していろんな視点があることに気付くことができたが、それは、新任期に自分ひとりでは気付きにくいことだった。</li> <li>・グループで事例検討をすることで、複数の保健師がかかわることができたのはよかったが、人数が多かったため、仲間づくりや連携までは難しかった。</li> <li>・グループ討議で自分の意見を出し、立場の異なる参加者の違う視点の意見を聞くことで、理解や共感等深まったと感じた。一人職場など職場で前向きにケースについて討議する機会やその環境がない参加者が多かった様子。今回のように前向きに討議が行える場で自分の意見が受け止められる経験は貴重な経験だったのではないかと思う。グループ討議終了後、参加者の表情が明るく晴れやかであった。</li> <li>・ベテラン保健師から日々の業務でこの手法を取り入れ、保健師に限らず多職種の参加でより内</li> </ul>	

容が深まっているとの話もあり、経験年数に応じてそれぞれ感じることはあったのではないかと。

- ・今年度は昼食時間を各グループで過ごすこととし、参加者同士の情報交換が図れたと思う。ただ、そこに職能委員（ファシリテーター、板書係）が入っていないので参加者同士の連携に関しては把握しきれていない。研修終了時、「また今度、これからもよろしく、また連絡します」などという声を聞いたので仲間作りはできたと思われる。

- ・事務局がグループ分けを工夫し、グループ内で経験の浅い人とベテランがバランスよく配置され、双方の意見を尊重しながら、討議が進んだ。

※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

<b>【評価基準】</b>
4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 (3) 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 (3) 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 (3) 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 (3) 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 (3) 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4 (3) 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4 (3) 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 (3) 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 (3) 2 1
<b>考察</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数が予定以上となった時、急遽事例を一つ増やす動きができ、参加者の満足度が高く、ミーティングの質を落とさず実施できた。</li> <li>・2年目ということもあり、ファシリテーター、板書係他、それぞれの役割分担は円滑にできた。地域、産業、医療機関等立場は様々であったが、課題共有もしながら意見交換を行った。</li> <li>・事例検討もよかったが、事例検討や保健指導について学習する講座や、感想を述べ合うグループ討議があったのが良かった。</li> <li>・多様な領域からの参加があったのはよかったので、今後積み重ねることにより、職域を越えたネットワーク作りに期待したい。</li> <li>・コーディネーターが昨年このミーティングの方法に疑問を持っておられたことがわかった。今年も継続実施することでその疑問が解消され、よりわかりやすい講義となった。</li> <li>・4時間のミーティングはお昼休みを挟んで5時間にするか、午後からの4時間にするか検討が必要。</li> </ul>	

## まとめ

◎保健指導ミーティングの評価をふまえて、まとめやご意見等をご記入ください。

### まとめ

・今年度は参加者も多く、新任期だけでなく幅広い年齢層の参加があったので、事例検討やグループワークにおけるディスカッションが効果的であった。スタッフにおいては、準備、手法等技術的なことを含め、昨年の実施をふまえて臨んだので、昨年よりはスムーズに運営できた。

・この事例検討会は事例提供者への負担が少なく、多くの気づきを得ることができることを再認識できた。各職場において、取り入れやすいという印象を持ってもらえたように思うので、この手法が定着できればよいと思われる。その反面、取っ付き易さだけではない専門職としてのケーススタディを実施していく必要があることも認識できた。

・保健指導ミーティングに参加された人はこの手法をぜひ自分の職場でも実施したいという思いが強いということがわかった。各職場で実施していくためには何が必要かをみつけ、各職場で展開できるためのサポート体制づくりが課題と思った。

・新任期保健師の気付きを促すには効果的である。またプリセプター保健師にとっても、色々な視点での意見を得ることができるのが良かった。多職種に拡大すると、複雑な事例に対しても使える手法だと感じた。

・講話により、この手法と他の事例検討の違いや、当事者と支援者の視点を混同しないこと、効果的な保健指導をするためのモデル等、広く学ぶことができた。

職域を越えた保健師間ネットワークや、お互いの活動を知り連携が取れるようにするためには、このような場を継続して行くことが必要と感じる。

また、参加人数によって、適切な規模のグループを作ることが必要であるが、事例発表者やファシリテーター、板書係と役割が多いため、参加人数とグループ数の調整をとることが難しいと思った。グループ人数が多いと仲間作りやグループの一体感が得にくい。少ないと、広い視点からの意見が得にくくなる。打合わせや準備等手間はかかるが、その分、満足が得られた研修であった。

・所属や経験年数が異なる保健師が、事例検討を通してお互い学びあう機会が持て、とてもよい刺激になった。ベテラン保健師から助言を受ける機会の少ない、一人保健師や新任保健師だけでなく、中堅保健師もグラウンドルールに基づいた進行で、萎縮する事なく発言できていたと感じた。参加者は自分の発言が認められ、表情も明るく満足感も高かったように感じる。このような研修が定期的で開催されると、色々な職場で色々な立場の人が参加する事例検討の開催へと広がりを持つと思うので、今後も継続してほしい。

・参加者同士が、業務に関連する連携を築くまでには至っていないと感じる、連携をするには一人一人のプロフィールをお互いに知り合うプログラムを組み込むことも必要と思う。

・全員がケース事例（可視化）に向いているため意見があり、効果的、効率的な検討ができて今後の方針が立てやすかった。

・事例検討の手引きを読んだ際には、堅苦しい難しい印象を受けたが、実施してみると非常に楽しく簡易で取り組みやすいという印象が変わった。このことから、多くの保健師がこの事例検討方式を体験し、取り組みやすさを理解していただくことが日常での活用を推進するために必要である。引き続きこのプログラムでの研修会を継続していくことが望まれる。

・保健指導ミーティングのプログラム、事例検討実施後の講義の方式は、非常にわかりやすく学びの整理が



しやすかった。そのため、各ステージの保健師が自身のスキルを振り返るための意義が大きいと感じた。

・多くの参加者を得るためには、事例検討とグループワークのみにして参加しやすくする方法も1案である。

・職域を超えたネットワークの構築に十分な成果を上げるためには、家族を支援する視点が重要であるが、今回の講話の中では短時間であった。この部分の理解をもう少し深め、地域と職域の接点を強化していければと感じた。

## 鹿児島県

## 保健指導ミーティングの企画

◎保健指導ミーティングの企画について、設定した目的・目標と、企画・準備のための事前打合せの概要、保健指導ミーティングの周知方法等についてご記入ください。

### 目的

- ⑥ 新任期及びプリセプター保健師が実践事例についてのグループ討議を通して自らの保健活動を振り返ることで、自ら考え、実践する力を身につける。
- ⑦ 保健師現任教育の原点としての新任期にフォーカスを当てることで、新任期やプリセプター保健師を含む保健師全体で相互に学び合う文化・ネットワーク形成を図る。

### 目標

- ① 自分の実践を振り返ることができる（実践の意識化、考えや行動への気づき）
- ② 多様なメンバーで集合知を導き出すプロセスを実感・体感する。
- ③ 事例検討の実践計画を立案ができ、自分の職場での実践につなげる。
- ④ 保健師間のネットワークづくりができる。

### 保健指導ミーティングのための事前打合せ

※追加の場合は表をコピーしてご利用ください。

保健指導ミーティング事前打合せ	
<b>【実施日】</b> H27/7/18 6時間程度 (9:30-15:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：7名 講師： 名 実践事例発表者： 名 コーディネータ： 名 計：7名
	<b>【実施理由】</b> 方向性（目的、目標）の整理及び具体的な内容について検討するため
	<b>【内容】</b> ・事業計画について：目的、目標、背景、事業内容等について整理 ・予算計画について
保健師職能委員会	
<b>【実施日】</b> H27/9/26 3時間程度 (9:30-12:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：8名 講師： 名 実践事例発表者： 名 コーディネータ：4名 計：12名
	<b>【実施理由】</b> 従事者同士で顔合わせを行うとともに、保健指導ミーティングの目的、内容について共有し、方向性を決定するため。
	<b>【内容】</b> ・昨年度の保健指導ミーティングの実施内容について、前担当から説明を行い、情報共有を実施 ・シナリオを用いて、事例検討会のデモンストレーション（読み合わせ）を実施し、振り返りを実施。 ・今回実施分の内容についての打合せ：目的、目標、事業内容等について

保健師職能委員会	
<b>【実施日】</b> H27/10/10 3時間程度 (9:30-12:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：6名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：4名 計：10名
	<b>【実施理由】</b> 当日の流れ、役割分担等、詳細について確認するため
	<b>【内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の進め方について</li> <li>・募集内容</li> <li>・当日の役割分担の検討</li> </ul>
保健師職能委員会	
<b>【実施日】</b> H27/11/7 3時間程度 (9:30-12:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：7名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネータ：0名 計：7名
	<b>【実施理由】</b> スタッフ間で当日についての最終確認を行うため。
	<b>【内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の進行及び必要物品の確認</li> <li>・役割分担の決定</li> <li>・事例提供について（事例提供者、内容等）</li> <li>・アンケート内容の検討、整理</li> <li>・当日の資料の確認</li> </ul>
保健指導ミーティング当日打合せ	
<b>【実施日】</b> H27/11/27 30分程度 (8:30-9:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：7名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネータ：3名 計：10名
	<b>【実施理由】</b> 最終打合せ
	<b>【内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の流れの確認</li> <li>・役割分担の確認</li> </ul>
保健指導ミーティング終了後反省会	
<b>【実施日】</b> H27/11/27 30分程度 (16:30-17:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：7名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネータ：3名 計：10名
	<b>【実施理由】</b> 実施後の振り返り
	<b>【内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容について、参加者アンケートを基に反省、評価を検討</li> <li>・今後の事例検討会実践普及のための取り組みについて</li> </ul>

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫されたことについてご記入ください。

(1)会員に対する取り組み

(例)会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ・ 県協会から文書にて通知。
- ・ 県協会ホームページによる周知
- ・ 県保健師長会より周知

(2)非会員を含めた取り組み

(例)職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

・ 県保健医療福祉課看護係（保健師人材育成担当部署）に依頼し、県内全市町村に文書にて通知。

- ・ 県保健師長会より周知

・ 昨年度の研修会参加者を対象としたアンケート評価において「もう一人参加者がいれば（事例検討会を）実践しやすい」「各地区に伝わるといい」等事例検討会の広がりについての課題となる意見も聞かれたことから、本年度は研修会案内文に“職場から2名以上の参加”を推奨する文言を加えた。結果的に職場全体での周知・参加（声を掛け合っただけの参加）につながったことから、研修会以降の自組織での継続的な事例検討会の実施を念頭に入れた周知方法になったと考える。

・ 申込期間中、適宜、申込状況を委員間で確認し「参加が少ない地域（大きくは保健所圏域）」の把握に努めた。協議の上、当該地域へは既存のネットワーク等を活用して再度周知を行い、結果的に参加に結びつけることができた。

## 保健指導ミーティングの実施

◎実施した保健指導ミーティングのプログラム構成、実践事例発表の概要、グループ討議の概要・工夫点等についてご記入ください。

### プログラム構成

◆プログラム（複数開催の場合は1回目、2回目のプログラムがわかるように記入してください）

※「関連する目標」の欄には、p2に記載したどの目標を達成するためのプログラムかを番号(①、②・・・)にてご記入ください。

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会, 会長挨拶, 導入	
10:15~11:00	県下市町村による実践報告 ① 鹿児島市 ② 出水市 ③ 南さつま市	① ③
11:00~11:35	ロールプレイのデモンストレーション	②
11:35~12:20	ロールプレイ 共有	②
12:20~13:10	昼食	
13:10~13:30	概要説明	③
13:30~14:20	事例検討	② ③
14:20~14:50	コミュニケーションタイム	① ④
14:50~15:30	ワールドカフェ	① ④
15:30~15:45	まとめ	① ② ③
15:45~15:50	発表者からのコメント	① ③
15:50~16:00	アンケート記入, 閉会	

### 実践事例発表

※複数の実践事例発表を行った場合は、表をコピーして記入してください。

※実践事例発表の資料は別途添付してください。

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：行政（鹿児島市，出水市，南さつま市）
(2)事例発表者の保健師経験年数：①3年 ②21年 ③16年
(3)発表タイトル：①事例検討会実施報告 ②「実践力 UP 事例検討会を実施して・・・」出水市及び出水保健所管内の取り組みについて（報告） ③「実践力UP事例検討会」南さつま市の取り組みについて

グループ討議

※複数テーマでグループ討議を行った場合は、表をコピーしてご利用ください。

構成	8～9人 × 6グループ
討議の テーマ	<p>1G：精神保健「現状認識に課題がある本人と、姉による経済的虐待」</p> <p>2G：母子保健「うつ等を抱える母親への支援とその子どもへの療育支援」</p> <p>3G：母子保健「医療的ケアが必要な未就学児及び家族への支援」</p> <p>4G：精神保健「精神疾患（うつ病）を持つ母親への支援」</p> <p>5G：母子保健「複合的な問題を抱えるハイリスク母子の支援」</p> <p>6G：母子保健「小児慢性特定疾患児の家族への支援」</p>
討議で 工夫した点	<p>① グループングにおいて、事例検討会の普及啓発と、今後、地域毎に検討会ができるように、同じ地域で編成した。</p> <p>② 日常、事例に関わる業務を担っているため、緊急にケース調整会議を行う場合もあることを想定して、当日グループ内で役割分担を行った。</p> <p>③ 情報整理のプロセスを明確にし、共有するための必需品として、白板を捉え、レンタルを利用した。</p> <p>④ 白板の活用を進めるために、項目を明記した「マグネットラベル」準備し活用した。</p> <p>⑤ 日本看護協会シナリオ（絶対に失敗しない展開）で全体ロールプレイのデモンストレーションを実施した。その後、さらに同じシナリオを使って各グループでロールプレイを実施することで、疑似体験ができるようにした。</p> <p>⑥ 各グループを事例に集中しやすい配置となる会場づくりとした。 （検討会の実施中はイスのみの使用とし（机を使用しない等）、参加者同士が膝を交わらせて対話できる環境を目指した）</p>

## 保健指導ミーティングの評価

◎保健指導ミーティングの評価について、3つの視点（実施評価／結果評価／企画評価）でご記入ください。

◎「企画評価」では、「実施評価」「結果評価」の結果を総括した評価をご記入ください。

実施評価

※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

### 【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	④ 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	④ 3 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	④ 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 ③ 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4 ③ 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものであったか(参加者の反応等からの評価)	4 ③ 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1
<b>考察</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(一定の議題で検討が留まり) 事例検討が最後まで進まないグループがあった。進み具合を見ながら、進行を促す声掛けが必要だった。</li> <li>・繰り返し参加の呼びかけを行うことで、新任期を含め、様々な地域や領域からの参加が得られた。一所属から複数の参加があったところが多かった。</li> <li>・昨年度研修に参加のあった自治体のうち、実践状況に基づき、3つの市に実践発表を行ってもらった。具体的なイメージの共有を図った上で、事例検討会の実践につなげられた。</li> <li>・ファシリテーターについて、事例提供者と事前に話をしておきたいという意見が多かった。</li> <li>・事例検討の前にファシリテーターの概要についてもっと丁寧に説明を入れた方が良い。</li> </ul>	



※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

<b>【評価基準】</b>
4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4   ③   2   1 └──┬──┬──┘
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4   ③   2   1 └──┬──┬──┘
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	④   3   2   1 └──┬──┬──┘
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	④   3   2   1 └──┬──┬──┘
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4   ③   2   1 └──┬──┬──┘
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4   ③   2   1 └──┬──┬──┘
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	④   3   2   1 └──┬──┬──┘
⑧参加者の満足を得ることができたか	④   3   2   1 └──┬──┬──┘
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	④   3   2   1 └──┬──┬──┘
<b>考察</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの際、グループ編成を地域別にすることで、地域ごとのネットワークができるよう工夫した。また、プリセプターとしての振り返りや、仲間作りにもつながった。</li> <li>・方式をワールドカフェにしたことで、同地域の保健師間のつながりを作りつつ、多数の方と交流が図れた。</li> <li>・時間の設定上、『事例検討の手法』についての説明が短く、わかりにくかった、という声があった。</li> <li>・事例提供者とファシリテーターの打合せの時間が必要だった。</li> </ul>	

※以下の評価項目について、右の4段階の評価基準で評価してください（最も近い数字に○印）。

<p><b>【評価基準】</b></p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	④ 3 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 ③ 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	④ 3 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 ③ 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	④ 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	④ 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	④ 3 2 1
<b>考察</b>	
<p>・企画段階から、職能委員だけでなく、協力員，県保健師長会，県保健医療福祉課（保健師人材育成担当部署）が参加し，連携して進めた。</p>	

## まとめ

◎保健指導ミーティングの評価をふまえて、まとめやご意見等をご記入ください。

### まとめ

- ・今年度は昨年度の保健指導ミーティング開催を受け、実際に現場で事例検討会に取り組んだ自治体からの実践報告を取り入れた内容でバージョンアップして開催した。地域、経験年数（年代）の異なる発表者から事例検討に取り組む上での苦労や事例検討によって得られた効果など、の発表があり、どの立場でも実際に現場で取り組むためにイメージしやすかったように感じる。前年度の取り組みを踏まえ、一步進んだ内容で実施できたのではないかと思う。事例検討会の後に実施したワールドカフェも「どのように工夫したら“自職場”で実施できるか？」という実践的な状況を意図して組み立てたことで、より「研修会で体験したことを、自分たちが職場にどう持ち帰るか？」の具体的な構想を立てられるよう配慮できたと考える。
- ・手法を学ぶことと手法を実際に現場で実践するために必要なことを考えることができた。
- ・県保健師長会、県、コーディネータと企画初期から積極的に連携し、効果的なミーティングが実施できるよう計画した。今回をきっかけに関係機関がより密に連携し、保健師人材育成に取り組んでいけると良い。
- ・グループ編成を地域別にしたことで、地域内での保健師ネットワークの形成につながった。今後は、今回の参加者を軸として、地域振興局単位で事例検討会に取り組む体制を整備したいと考えており、来年度は、地域別での研修開催を計画予定。

## 資 料

平成 27 年度 実施 3 県の実施状況等の概要

県名 (実施回数) 参加者数	栃木県 (3 回目) 31 人	広島県 (3 回目) 58 人	鹿児島県 (6 回目) 51 人
ミーティング準備の実施状況	<p>◇回数：4 回 ◇参加者：職能委員、講師</p> <p>◇内容： ・実践力アップ事例検討会の目的、手法について学習 ・保健指導ミーティング研修会の目的、進め方、講義内容、役割分担、進行の確認、事例検討会タイムスケジュールの検討等</p>	<p>◇回数：8 回 ◇参加者：職能委員、コーディネータ、実践事例発表者</p> <p>◇内容： ・役割担当について ・事例発表者の決定 ・事例検討の進め方 ・グループワークの進め方 ・発表者、ファシリテーター等の役割確認 ・当日プログラムの検討</p>	<p>◇回数：4 回 ◇参加者：職能委員、コーディネータ</p> <p>◇内容： ・当日の進め方について ・当日の役割分担の検討 ・役割分担の決定 ・事例提供について(事例提供者、内容等) ・当日の資料の確認</p>
周知(募集)の工夫	<p>【会員】 ・実施要項を栃木県看護協会のホームページにアップし広く周知 ・行政、産業、医療、福祉、その他の保健師の所属する勤務先(会員外も含む)に看護協会から郵送にて開催通知を送付し周知。</p> <p>【非会員】 ・2 年に 1 回実施する従事者届けの送付先を県に依頼しデータを取得。そのデータを活用し開催通知をメールにて保健指導主任者あて送付。</p>	<p>【会員】 ・県協会ホームページに保健指導ミーティングの開催を掲載 ・会員施設へ保健指導ミーティングの開催案内を 2 か月連続で送付し周知をした。 ・職能委員が所属施設に参加を呼び掛けた。</p> <p>【非会員】 ・広島県産業保健研究会、広島県保健師研究協議会、広島県市町村保健活動協議会及び保健師長会(広島県支部・広島市支部) 会長へ保健指導ミーティングの開催案内を送付し周知 ・広島県に勤務する保健師及び 22 市町(広島市を除く)への情報提供を実施 ・広島市保健福祉局保健部保健医療課と 8 か所の保健センターへ情報提供を実施 ・県内全市町村に文書にて通知 ・県保健師長会より周知</p>	<p>【会員】 ・県協会から文書にて通知。 ・県協会ホームページによる周知 ・県保健師長会より周知</p> <p>【非会員】 ・県保健医療福祉課看護係(保健師人材育成担当部署)に依頼し、県内全市町村に文書にて通知。 ・県保健師長会より周知 ・申込期間中、適宜、申込状況を委員間で確認し「参加が少ない地域(大きくは保健所圏域)」の把握に努めた。協議の上、当該地域へは既存のネットワーク等を活用して再度周知を行い、結果的に参加に結びつけることができた。</p>

<p>実践事例発表で 取り上げた事例</p>	<p>生活習慣の改善に踏み切れない 糖尿病予備軍男性への支援</p> <p>他 2 事例</p>	<p>メンタル面に不調がある社員の 特定保健指導の取り組み方について</p> <p>他 3 事例</p>	<p>「実践力UP事例検討会」 南さ つま市の取り組みについて</p> <p>他 2 事例</p>
<p>討議での工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討を円滑に進めるために事前学習会を開き、実践力アップ事例検討の学びを深めた。</li> <li>・事例提供者とファシリテーター、書記の事前打合せを実施した。</li> <li>・タイムスケジュールを見やすいところに貼付し円滑な討議となるよう確認しながら進行した。</li> <li>・テーマを記したマグネット式張り紙を作成し、検討内容を確認しやすくした。</li> <li>・実践力アップ事例検討会の共通理解を図るため、事例検討前に目的や進め方について具体的に説明した。</li> <li>・コーディネーターが各グループの進行状況を確認しながら進化した。</li> <li>・参加者全員が事例検討に積極的に参加できるよう、全員が対等に発言できるような雰囲気をつくり、声かけに注意した。</li> <li>・参加者が発表された実践事例の理解が深まるよう事例の状況現象についての質問時間を多くとった。</li> <li>・ファシリテーターが、他の人の発言に耳を傾ける、否定的にならない、非難しないよう声かけを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療が中断となるきっかけは何か、このケースの強みを明確にし、治療意欲につなげることができるか、家族、職場の協力を得るために必要なことは何か、皆の発言をもらさずポイントを項目毎に解りやすく整理して書くようにし全員で確認しながら進めた。</li> <li>・情報や出された意見を共通認識できるように大切な事は協調や色分けをしたりして全員が気付きやすいようにした。</li> <li>・事例発表者が、今後どのような働きかけをしていくかを確認することができた。</li> <li>・あらかじめ、ホワイトボードに事例の概要をできるだけ書き出したので、参加者が見えやすいように前に寄って座ってもらった。</li> <li>・最初にグラウンドルールの確認を行うことで、前向きな意見を出してもらえた。</li> <li>・ファシリテーターが各 STEP の順を追って話題の転換を行い、意見の整理や確認を行うことで、参加者も情報の整理が行いやすかった。</li> <li>・ファシリテーターがゆったりと構えることで、参加者が自分の意見を言いやすい雰囲気が作られ、指名しなくても全員に発言してもらえた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループングにおいて、事例検討会の普及啓発と、今後、地域毎に検討会ができるように、同じ地域で編成した。</li> <li>・日常、事例に関わる業務を担っているため、緊急にケース調整会議を行う場合もあることを想定して、当日グループ内で役割分担を行った。</li> <li>・情報整理のプロセスを明確にし、共有するための必需品として、白板を捉え、レンタルを利用した。</li> <li>・白板の活用を進めるために、項目を明記した「マグネットラベル」準備し活用した。</li> <li>・日本看護協会シナリオ（絶対に失敗しない展開）で全体ロールプレイのデモンストレーションを実施した。その後、さらに同じシナリオを使って各グループでロールプレイを実施することで、疑似体験ができるようにした。</li> <li>・各グループを事例に集中しやすい配置となる会場づくりとした。（検討会の実施中はイスのみの使用とし（机を使用しない等）、参加者同士が膝を交わらせて対話できる環境を目指した）</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">討議での工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の学びが深まるよう参加者全員に振り返りを促した。</li> <li>・実践力アップ事例検討会が活用できるようホワイトボードに板書した記録物を写真に写し印刷しグループごとに配付した。</li> <li>・話しやすい環境作りのため、新任期とプリセプターでグループ分けをした。</li> <li>・新任期保健師のグループワークがスムーズに進むよう、職能委員が話題づくりをするなどきっかけ作りを配慮した。</li> <li>・新任期保健師、プリセプターそれぞれの学びについて確認できるよう振り返りの時間を確保した。</li> <li>・参加者同士のネットワークが構築できるよう情報交換の時間にも留意した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任期の保健師の割合が多かったため、発言をしやすい促しや、促しのタイミングに配慮し、グループ員全員に発言をしてもらった。</li> <li>・事例発表者が気付いていない視点、情報の整理の仕方、支援の方法について、ベテラン参加者から意見を引き出すようにした。</li> <li>・時間管理をし、アセスメントに時間をかけた。</li> <li>・意見交換の中で出てきたキーワードに着目して意見を求める工夫により、参加者の考えがまとまりやすかった。</li> <li>・発言された言葉で短く記録するよう気を付けた。</li> <li>・事例発表者、ファシリテーター、板書係で本事例の経過の確認、事例発表者が重要だと思っている点を確認しながら板書の準備を行った。その際、事例発表者の緊張をほぐすように会話を多く実施した。</li> <li>・12名と人数が多かったが、サークルになり全員の顔が見えるようにイスを配置した。その際、隣の人との距離を近づけ一体感を持たすようにした。</li> <li>・保健師の思いだけでなく、なぜ相手がそのような行動を取ってしまうのか、相手の気持ちや、特性に合わせた保健指導に事例発表者が気付くよう、参加した保健師から広く意見が出るよう発言を促した。</li> </ul>	
--	---	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ミーティングの評価・効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の開催時期や場所、実施時間は適切だった。</li> <li>・新任期保健師の参加は多かったが中堅期保健師の参加が少なく、研修内容の見直しが必要である。</li> <li>・研修会の企画から県、大学など必要な人材の協力を得ることができ、関係機関との連携強化が図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例発表者は、きちんと事例をまとめて発表できた。参加保健師の所属や経験も多様で、それぞれの立場から発言ができていた。事例発表者に「責められ感」がないのが良かった。グラウンドルールの共有ができたのが良かった。</li> <li>・事例発表者が、当初目標について明確化できていなかったが、グループ討議を通して、自分の目標設定について気付きが持てた様子だった。</li> </ul> <p>事例発表者本人の問題・課題と感じている点と対象者自身が問題と思っている点が異なること、対象者の思いをしっかりと言葉として確認できていないこと、目標は発表者のものではなく、対象者のものであるべきだということなど、事例発表者だけでなくグループ討議参加者が気付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員より多い参加申し込みに対し、グループ数を増やす、広い会場に変更する等柔軟な対応をし、参加者にとって有用なミーティングを開催することができたが、1グループの人数が12名と多かったため、参加者一人ひとりの発言はできたものの、一人当たりの発言数は少なめとなり、一体感が持ちにくかった面もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な領域への働き掛けを試みたことは良かった。産業部門からの参加がなかったのは、「新任期保健師がいない」という企業や開催日を変更したことにより、参加が不可能になった企業もあったためである。</li> <li>・暴風のため開催日を変更したことにより若干の参加人数が減った。</li> <li>・事例提供者の選定やスタッフの確保の点からグループ編成を3つと決めていたこともあり結果的にグループ人員としては適当となった。</li> <li>・プログラム内容は新任期保健師向けで妥当であった。</li> <li>・新人期の保健師力をさらにUPさせるには、身近な場所での継続した開催が必要である。保健所管内や各市町村が自ら実施できるよう支援体制も必要ではないか。</li> </ul>
--	--	---	---



<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ミーティングの評価・効果等</p>		<p>・昨年度に引き続き2年目の実施であるため、スタッフは要領を得ており、ファシリテーターの進行もスムーズで時間内に方向性までを出すことができ、継続することの大切さをスタッフとしても大いに感じた。事例発表者及び関係者が事前の打合せを丁寧に行うことで、進行もしやすかった。</p> <p>また、研修参加にあたりテキストの準備を促したためか、グラウンドルールや事例検討会の手法についての理解が早く、スムーズな進行ができた。</p> <p>実際に体験をすることでこの手法による事例検討会形式が、忙しい業務の中でも取り入れられそうであるという印象を持ってもらえた。</p>	
--	--	--	--

平成27年度  
保健指導ミーティング 参加者アンケート

様式15

当日

以下のⅠ～Ⅱの項目について、該当する番号にご回答をおねがいたします。

Ⅰ. あなたご自身についてお尋ねします。

項目	選択肢と回答欄	
ア. 性別	1. 女性	2. 男性
イ. 年齢 (2015年10月時点の年齢)	( )歳	
ウ. 現在の職種 (○は1つだけ)	1. 保健師 ↓ エ以降からご回答ください	2. 助産師 3. 看護師 ↓ オ以降からご回答ください 4. その他 [ ]
エ. あなたの通算での保健師経験年数(2015年10月時点、休職中の期間は除く)	( )年目	
オ. 現在の役職 (○は1つだけ)	1. 係員(スタッフ)	2. 主任もしくはそれと同等
	4. 課長もしくはそれと同等	5. 部長もしくはそれと同等
	7. その他 [ ]	3. 係長もしくはそれと同等
		6. 所長もしくはそれと同等
カ. 所属の種類 ( )内まで選択してください。(○は1つだけ)	1. 都道府県	2. 都道府県型の保健所
	4. 市町村	5. 地域包括支援センター
	7. 企業・事業所	8. 健診センター・労働衛生機関
	10. 診療所	9. 病院
	13. 教育・研究機関	12. 介護老人保健/福祉施設
		14. その他 [ ]
キ. 看護協会の会員(○は1つだけ)	1. 会員である	2. 会員でない
ク. 保健指導ミーティングに参加した理由(○はいくつでも)	1. 興味のあるテーマだったから	2. 興味のある講師等だったから
	3. 同じ職種や違う職種と交流したかったから	4. 保健指導のスキルアップをしたいから
	5. 自分の実践を振り返る機会を持ちたかったから	6. 日々の保健活動に課題を感じているから
	7. 毎年継続的に参加しているから	8. 参加費が無料だったから
	9. いつも看護協会の研修を受けているから	10. 友人・同僚に誘われたから
	11. その他 [ ]	

II. 本日の保健指導ミーティングについてお尋ねします。

以下の項目について、該当する番号に○を付けてください。(○は1つだけ)

質問	回答欄			
	4. 非常に そう思う	3. ややそ う思う	2. あまりそ う思わ ない	1. 全くそう 思わない
(1) 保健指導ミーティングに参加して、参加者同士の交流ができましたか	4	3	2	1
(2) 保健指導ミーティングに参加して、学ぶことができましたか	4	3	2	1
(3) 保健指導ミーティングに参加して、今後もやりとりできる関係づくりができましたか	4	3	2	1
(4) 実践事例発表は、ご自身の実践を振り返るのに役立ちましたか	4	3	2	1
(5) 実践事例発表を聞くことで、ご自身の実践を想起することができましたか	4	3	2	1
(6) グループ討議では、ご自身の保健指導の経験(うまくいかなかったこと、しっくりいかなかったこと、できていなかったこと等)を話すことができましたか	4	3	2	1
(7) ご自身の保健指導について、今の課題に気づくことができましたか	4	3	2	1
(8) 今後のスキルアップへの動機づけができましたか	4	3	2	1
(9) 強化すべきご自身のスキルを明確にすることができましたか	4	3	2	1
(10) グループ討議は、ご自身にとって役に立つ内容でしたか	4	3	2	1
(11) 時間配分は、適切でしたか	4	3	2	1
(12) 開催回数は、適切でしたか	4	3	2	1

■その他ご意見等ございましたらお聞かせください。

(都道府県看護協会様へ) この破線以降は、都道府県看護協会様で、質問を変更していただいてもかまいません。

■アンケート結果は、本事業の目的以外には使用せず、分析は統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。ご協力ありがとうございました。

**保健指導ミーティングの開催 実施報告**

---

平成 27 年度 厚生労働省  
保健指導支援事業 人材育成事業

**保健指導ミーティングの開催  
実施報告**

発行日 2016 年 3 月 31 日  
編集 公益社団法人 日本看護協会 健康政策部保健師課  
発行 公益社団法人 日本看護協会  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2  
TEL 03-5778-8831 (代表)  
FAX 03-5778-5601 (代表)  
URL <http://www.nurse.or.jp>

---

※本書からの無断転載を禁ずる